

Euthanasia 安楽死

吉田 真人

Euはギリシャ語の接頭語で「よい、正しい」を表し(Euphoria 陶酔のEuも同じ)‘Thanasiaはギリシャ神話に登場する“死そのものを神格化した神 Thanatos”に由来する。よい(正しい)死に神ということだ。これに比べると日本語の安楽死は、いささか即物的な感じがする。

欧州ではスイス、ベルギー、オランダ等で一定の条件下で安楽死を認める法律が施行されている。オランダでは、近年の死因のうち安楽死が約5%を占めているほどで、つい先日も元首相夫妻が安楽死を選択し、旅立って行った。

フランスは、カトリック教会からの反対もあり、法制化は未達で、周辺国に遅れをとっている。しかし3月10日、マクロン大統領は、末期がんなどで余命が限られると診断されている成人に限って、安楽死や自殺ほう助を法律で認める措置を盛り込んだ「人生の終末」法案を5月に議会へ提出する、と表明した。この法案は「厳格な条件下で自殺の幫助を要請する可能性に道を開く」もので、医療チームの検証が求められる一方、患者の家族は決定に対して異議の申し立てができる。

日本ではどうだろうか。

5年前、難病ALSを患う女性を、本人からの依頼で殺害した罪などに問われていた医師に対し、京都地裁は本年3月「短時間で軽々しく犯行に及び、生命軽視の姿勢は顕著で強い非難に値する」とし、懲役18年を言い渡した。被告は無罪を主張し控訴中。

2018年、評論家の西部邁が自殺した際の幫助罪に問われたテレビ会社社員に対し、東京地裁は「自殺の際に使用したベルトを準備し、車で現場まで送ったことなどから幫助行為の重要部分を担った」とする一方、「被告が協力したのは西部氏からの働きかけが大きい」として懲役2年執行猶予3年の判決とした。被告は「入水はご自分のご意志で動いた」として、無罪を主張していた。

日本では安楽死問題の議論が進んでいるとは思えず、欧米とのこの大きな違いはどこから来るのだろうか。

(2024年4月11日)